

インフルエンザ情報

国立感染症研究所感染症情報センター（<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>）は、「インフルエンザ流行マップ第04週（1月23日～1月29日）平成24年2月1日現在」を平成24年2月3日公表した。

（コメント）

2011/2012年シーズンのインフルエンザの定点当たり報告数は2011年第42週以降増加が続いている。2012年第4週の定点当たり報告数は35.95（患者報告数177,290）となり、前シーズンの最高値（2011年第4週定点当たり報告数31.88）を上回った。

定点医療機関からの報告をもとに、定点以外を含む全国の医療機関をこの1週間に受診した患者数を推計すると約173万人（95%信頼区間：160万人～185万人）となり、5～9歳約50万人（28.9%）、10～14歳約33万人（19.1%）、0～4歳約26万人（15.0%）、30代約16万人（9.2%）、40代約12万人（6.9%）、60歳以上約11万人（6.4%）の順となっている。14歳以下で全推計患者数の60%以上を占めている。

都道府県別では福井県（74.88）、高知県（66.69）、愛知県（60.48）、三重県（54.58）、岐阜県（49.87）、和歌山県（48.32）、静岡県（48.07）、石川県（47.42）、山口県（45.64）、岩手県（45.52）の順となっている。3週連続して全ての都道府県で報告数の増加がみられ、14の府県では定点当たり報告数が40.00を上回った。

警報レベルを超えている保健所地域が285箇所（42都道府県）と大きく増加し、注意報レベルのみを超えている保健所地域は214箇所（41都道府県）と減少した。

2011年第51～2012年3週の5週間では、インフルエンザウイルスの検出はAH3亜型（A香港型）が最も多く、B型、AH1pdm09の順となっている。詳細は感染症情報センターホームページ（<http://idsc.nih.go.jp/iasr/influ.html>）を参照されたい。

なお、第52週～第04週までの都道府県別の定点当たり報告数の推移【感染症情報センター発表の「感染症発生動向調査週報」等を基に機構で作成】

※定点とは、発生動向調査の観測用に選ばれた医療機関のことで、地域の流行状況について全体の傾向を可能な限り反映できるように、保健所ごとに設定されています。

